

# スポーツボランティア・上級リーダー養成研修会 テキスト

## 目 次

### 第1章 概論 スポーツボランティア・上級リーダー

- 1 スポーツボランティア・上級リーダーとは…………… 1
  - 1-1 スポーツボランティア・上級リーダー養成研修会の経緯
- 2 スポーツボランティア・上級リーダーに求められるもの…………… 1
  - 2-1 理想のリーダー像に向かって
  - 2-2 上級リーダーの役割
- 3 スポーツボランティア・リーダーの課題と現状…………… 2
  - 3-1 スポーツマネジメントの導入と活用
  - 3-2 仲間づくりの弊害例
- 4 スポーツボランティアグループの運営管理…………… 3
  - 4-1 スポーツボランティア・リーダーおよび上級リーダーの心がけ
  - 4-2 スポーツボランティアグループの運営・管理
  - 4-3 ボランティア団体であることの理解

### 第2章 理論 スポーツボランティア団体の現状と運営

- 1 スポーツボランティア団体の現状について…………… 4
  - 1-1 諸外国でのボランティア活動
  - 1-2 スポーツボランティア組織の活動内容および活動規模
  - 1-3 ボランティア活動の種類別行動者率
  - 1-4 スポーツボランティアの組織と特徴
  - 1-5 ボランティア活動における課題等
- 2 スポーツ関連の法律変遷とスポーツボランティアについて…………… 10
  - 2-1 スポーツに関する法律等の流れ
  - 2-2 スポーツ基本計画とスポーツボランティア
- 3 組織運営について…………… 11
  - 3-1 法人格を持つメリット
  - 3-2 スポーツボランティアの組織に適した法人格
  - 3-3 NPO法人の社会的意義
  - 3-4 NPO法人の主な活動資金の種類
  - 3-5 資金調達のアイディア

### 第3章 実技 コミュニケーションスキル

- 1 グループワーク…………… 14
  - 1-1 グループワークへの学術的理解
  - 1-2 スポーツボランティアにおけるグループワーク

2	スピーチ、プレゼンの仕方	17
2-1	話し方の基本	
2-2	正確に伝え聞くために YES NO GAME	
2-3	1分間スピーチ	
2-4	スピーチの要素	
2-5	話し方コラム	
3	ボランティアの適材適所	23
3-1	過去の活動実績	
3-2	性格の分類を把握する	
3-3	総合判断での適材適所	
4	イベントの企画・運営・反省	25
4-1	イベントの企画	
4-2	行事企画書の作り方	
<b>第4章 資料 日本スポーツボランティアネットワーク (JSVN)</b>		
1	活動について	30
1-1	設立意義と目的	
2	主な事業	32
2-1	3つの事業	
2-2	スポーツボランティア養成事業	
2-3	コーディネート事業	
2-4	スポーツボランティア周知・啓発事業	
3	スポーツボランティア養成プログラムの概要	34
3-1	講習会概要	
3-2	更新講習概要	
3-3	講師・指導者制度概要	

※第4章は、「スポーツボランティア研修会」「スポーツボランティア・リーダー養成研修会」テキストと同じ内容。

# スポーツボランティア・上級リーダー

## 1 スポーツボランティア・上級リーダーとは

### 1-1 スポーツボランティア・上級リーダー養成研修会の経緯

スポーツボランティア・上級リーダーの養成は、スポーツボランティアが発展途上の日本において、スポーツボランティア分野をこれまで以上に普及させるために考えられた「ライセンス制度」である。

「ライセンス」という目に見えるものになることで、これまでスポーツボランティアという無形であったものが、有形の存在意義をもつようになるのである。

社会構造の違うヨーロッパ諸国や米国等のスポーツボランティア制度を、国内にそのまま導入させることができるわけではなく、草創期としての日本特有のあり方や取り組みを工夫する必要があるとの考えからである。

自らのスポーツボランティア・リーダーの経験則をもとに他のリーダー層をまとめる立場の「上級リーダー」を養成することで、スポーツ行事の円滑な運営のみならず、全てのスポーツ活動に貢献することを目指すものである。

## 2 スポーツボランティア・上級リーダーに求められるもの

### 2-1 理想のリーダー像に向かって

「スポーツボランティア・上級リーダー」を目指すには、まず、スポーツボランティアやスポーツボランティア・リーダーとしての経験の集積から、「理想とするリーダー像」を描くことが重要である。次に、そこに近づくための要素を挙げ、要素を身に付けるための手法を考え、実践を心がける。こうしたことを実行できるリーダーこそが「スポーツボランティア・上級リーダー」となれる。

### 2-2 上級リーダーの役割

スポーツボランティア・上級リーダーの役割は、スポーツボランティア活動におけるリーダーをまとめることである。また、「リーダーの中のリーダー」である以上、物事を幅広く、深く、厚く考えられなければならない。そのために、自ら進んで研修・経験を積み続けることが求められる。

こうしたスポーツボランティア・上級リーダーが機能することで、スポーツイベントやクラブ・団体の活動はさらに円滑になり、スポーツ活動におけるスポーツボランティアの充実・発展、さらには、競技者の競技力向上にもつながることが期待される。

## 3 スポーツボランティア・リーダーの課題と現状

### 3-1 スポーツマネジメントの導入と活用

スポーツボランティア・上級リーダーにはスポーツマネジメントの知識が必要であるが、実際の活動においては、スポーツマネジメントありきの活動ではなく「主催者や顧客（参加者等）の要望に応えること」が基本である。スポーツボランティアそのものにも新しい満足を生み出すためのマネジメントや、環境の適切化と資源の組み合わせを取り入れたマネジメントなど、視野を広く捉える必要がある。

元来スポーツは、グループごとの取り決めやルール等があることで成り立つ。許容される範囲で、顧客（参加者等）がスポーツを楽しむことを発案することも「スポーツボランティア・上級リーダー」の役割である。

### 3-2 仲間づくりの弊害例

スポーツボランティア活動では、ほかのボランティアとの出会いや活動内容自体が新鮮であることから、仲間意識が不思議なほど高まる。同じ活動に参加したボランティアと意気投合する確率が高く、この点はスポーツボランティアの素晴らしさのひとつである。特に、リーダー層の取りまとめを担う人同士は、いっそう意気投合する確率が高いようである。

ところが、このことが弊害を生んでいるとの報告が散見される。たとえば、ある行事が数年間継続された場合、次のようなことが起き得る。

スポーツボランティア活動を通して仲間づくりをしたい、またスポーツボランティア・リーダーに憧れて仲間入りをしたいと思ったものの、すでにできあがっている、ボランティア同士のグループという「壁」が立ちふさがり、なかなか踏み込めない。この壁は、できあがっているグループの側からは見えていないことが多い。よかれと考える仲間づくりであったものが、スポーツボランティア活動そのものや、新しいメンバーの参画に支障を来すことにもつながりかねない。

主催者側がこうした問題に気付いても、これまで協力していただいているボランティアへの遠慮が邪魔をして、その問題について言い出せないことが多い。主催者とボランティアが、言葉では「お互いに協力体制の下でお願いしたい」といいながら、現実には、両者の仲介に苦慮するという事態が起きている。

解決策のひとつとして、活動や役割を2～3年ほどの単位で入れ替えることが挙げられる。その活動や役割を一時期離れることで、気持ちをリフレッシュでき、新たにスポーツボランティア活動に臨むことができるだろう。

## 4 スポーツボランティアグループの運営管理

### 4-1 スポーツボランティア・リーダー及び上級リーダーの心がけ

スポーツボランティア・リーダーや上級リーダーとして活動するとき、次のような心がけが必要である。

- ①リーダーは孤独であり、責任を伴うことを覚悟する。  
リーダーおよび上級リーダーは物事を一人で判断しなければならない場面が多い。  
時間的な余裕がないことも多く、即座に決断を下すことも増える。
- ②コミュニケーションの大切さを理解し、偏りが見える指示は避ける。  
気の合うボランティアや、活動がうまくできるボランティアに指示が偏らないようにすべきである。
- ③あらゆる情報について慎重、適切に活用する必要がある。  
立場上知り得た個人情報、その他、現場や運営上の情報については、その取り扱いに十分注意するべきである。

### 4-2 スポーツボランティアグループの運営・管理

グループの運営・管理を円滑に進めるには、次のようなことに配慮するとよい。

- ①ボランティアの能力や適正を見極めて、自分以外のリーダーまたはサブリーダーを指名する。そうした人たちとの協力体制を整えるとグループをコントロールしやすい。
- ②リーダーができるだけ一人ひとりの名前を把握し、時間、タイミングを見計らってそれぞれに感謝の言葉をかけるとグループがまとまりやすい。名札を付けることでボランティア同士も名前呼び合える。

### 4-3 ボランティア団体であることの理解

国内の特定非営利活動法人（NPO法人）やボランティア活動団体が、活動資金ありきではじまる例は少ない。資金はないが“気持ち”や“志”がある人々によって、「手弁当」で活動を開始した例がほとんどである。活動開始後、活動が軌道に乗れば社会に認められ、支援が集まるまでになり、支援金を申請できるまでに成長する。ボランティア団体は、当初から予算を組んで収入を見込んで活動する会社組織等とは、団体のあり方が異なる。

ところが、長年、会社組織や団体組織に勤務し、定年退職を機にスポーツボランティア活動に取り組むようになったというボランティアのなかには、それまでに経験した組織体制のあり方や組織論を、そのままスポーツボランティア活動やスポーツボランティアグループに持ち込もうとする人がいる。こうしたことが起こると現場が混乱したり、陰悪な雰囲気になったりする。

こうした場合は、「ボランティア団体のあり方」を十分理解した上で当人に説明し、当人に理解してもらった上で協力を促す必要があるようである。

# スポーツボランティア団体の現状と運営

## 1 スポーツボランティア団体の現状について

### 1-1 諸外国でのボランティア活動

文部科学省の委託調査として行われた「諸外国におけるボランティア活動に関する調査研究」（2007）では、欧米とアジア7カ国における、国民のボランティア活動についての調査が行われ、国ごとのボランティア活動に対する考え方等がまとめられている。そのうち、アメリカ、スウェーデンの例を紹介する。

#### ●アメリカ

建国以来、ボランティア精神・ボランティア活動を国の基礎として重要視してきたアメリカでは、ボランティア活動が、特に次世代を担う若者の重要な市民教育の場として認識されている。また、2001年の同時多発テロや大規模なハリケーン災害が生じてから、国民のボランティア活動への参加率が高まっている。これを後押しするように、ボランティア活動を行う非営利団体への税制優遇措置はもちろんのこと、ボランティアセンターやマッチングのためのホームページを気軽に利用できる環境、ボランティアの表彰制度が多いことも、ボランティア活動の促進につながっているといえる。

#### ●スウェーデン

スウェーデンではボランティア活動を「無給で行う余暇活動の一種」と定義している。住民の9割が何らかのボランティア組織に参加する等、活動への参加は活発である。他の国と違い、活動内容としては“間接ボランティア”がほとんどで直接の対人援助は2割以下となっている。これは、公的サービスが充実しているため、直接ボランティアの活動余地が少ない点が指摘されている。

実は、スウェーデンをはじめ調査対象国の大半では、ボランティア団体の組織運営をささえるボランティア活動が重要視されている。組織運営をささえる活動には、単純な事務作業から専門的な知識を有するものまでであるため、個人のライフスタイルやこれまでの経験や専門知識を生かしながら社会に貢献できるという利点がある。

## 1-2 スポーツボランティア組織の活動内容および活動規模

国内のスポーツボランティア組織には、国際スポーツ大会や国民体育大会の開催後に設立された団体もあれば、総合型地域スポーツクラブを運営している組織等もあり、設立経緯や活動内容は多様である。

笹川スポーツ財団がスポーツボランティア関係団体を対象に、その組織化と活動の継続化につながる要因を明らかにするために行った調査によると、活動内容にはイベント・大会にかかわるものが顕著に多い（以下①）。一方、定期的かつ継続的なクラブ・団体ボランティア活動を行っている団体は全体の4分の1にとどまっている。その他、団体の登録者数（②）、収入額と支出額（③④）は次の通りである。

### ①スポーツボランティアの活動内容

スポーツボランティアの活動内容を見ると、最上位が「イベント・大会の運営補助」（86.2%、25団体）、次いで「イベント・大会の指導者・審判」（55.2%、16団体）となっており、イベント・大会に関わる活動内容が多い。

#### ●スポーツボランティアの活動内容(複数回答) (29団体が回答)

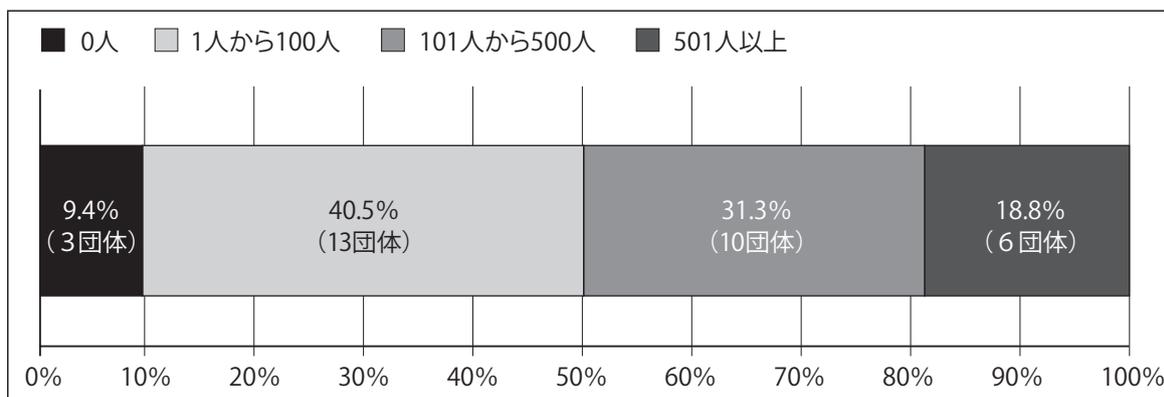
活動内容	団体	%
イベント・大会の運営補助	25	86.2%
イベント・大会の指導者・審判	16	55.2%
ボランティア講習会の開催	15	51.7%
スポーツボランティア募集情報の発信	13	44.8%
クラブ等のスポーツ組織の運営補助	7	24.1%
クラブ等の指導者・審判	6	20.7%
スポーツ施設の管理補助	2	6.9%
その他	7	24.1%

(笹川スポーツ財団「スポーツボランティア団体の活動に関する調査」2011年)

### ②スポーツボランティア団体の登録者数

スポーツボランティア団体におけるボランティア登録者数は、「1人から100人」（40.5%、13団体）が最も多く、次いで「101人から500人」（31.3%、10団体）となっている。

#### ●スポーツボランティア登録者数(32団体が回答)

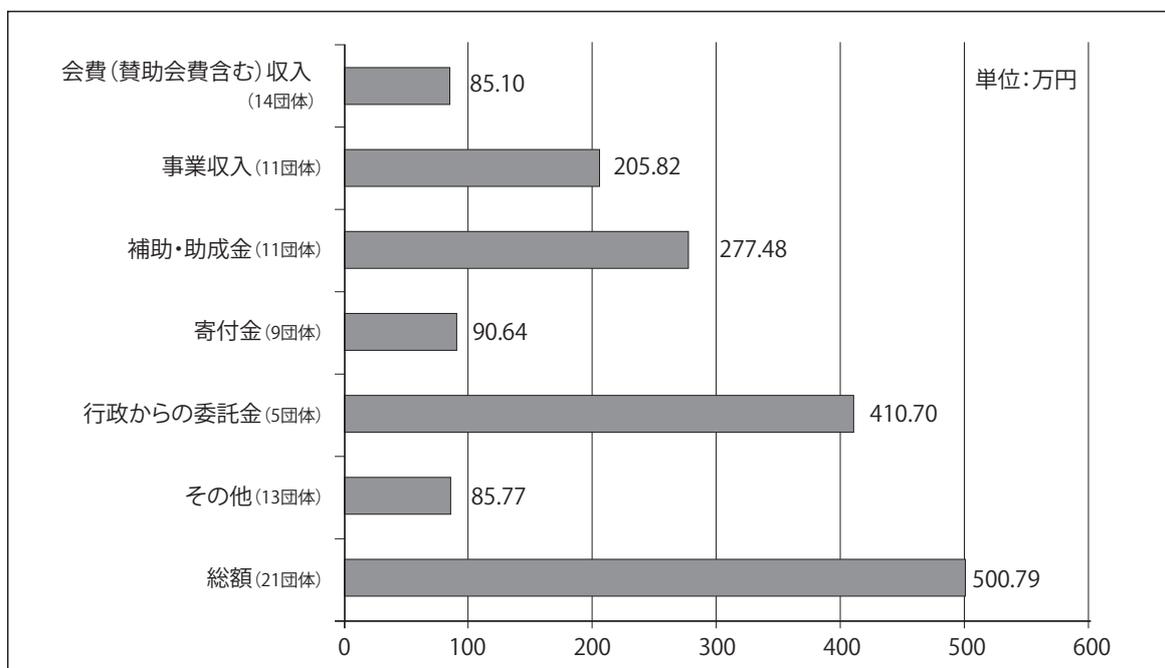


(笹川スポーツ財団「スポーツボランティア団体の活動に関する調査」2011年)

### ③収入額

スポーツボランティア団体の2010年度の収支決算において、収入額の平均は約500万円であった。最も金額が高い収入項目は「行政からの委託金」(平均 410万円)、次いで「補助金・助成金」(平均 277万円)、「事業収入」(平均 206万円)となっていた。

#### ●スポーツボランティア団体の収支決算額(収入)

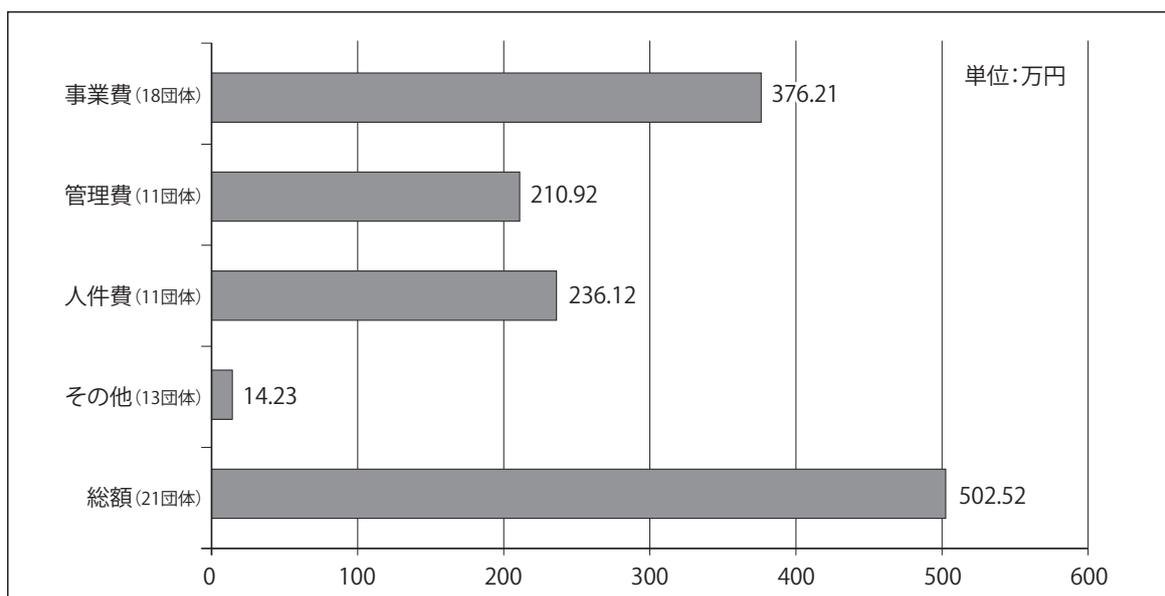


(笹川スポーツ財団「スポーツボランティア団体の活動に関する調査」2011年)

### ④支出額

スポーツボランティア団体の2010年度の収支決算において、支出額の平均は約502万円であった。最も金額が高い支出項目は「事業費」(平均 376万円)、次いで「人件費」(平均 236万円)、「管理費」(平均 210万円)となっていた。

#### ●スポーツボランティア団体の収支決算額(支出)



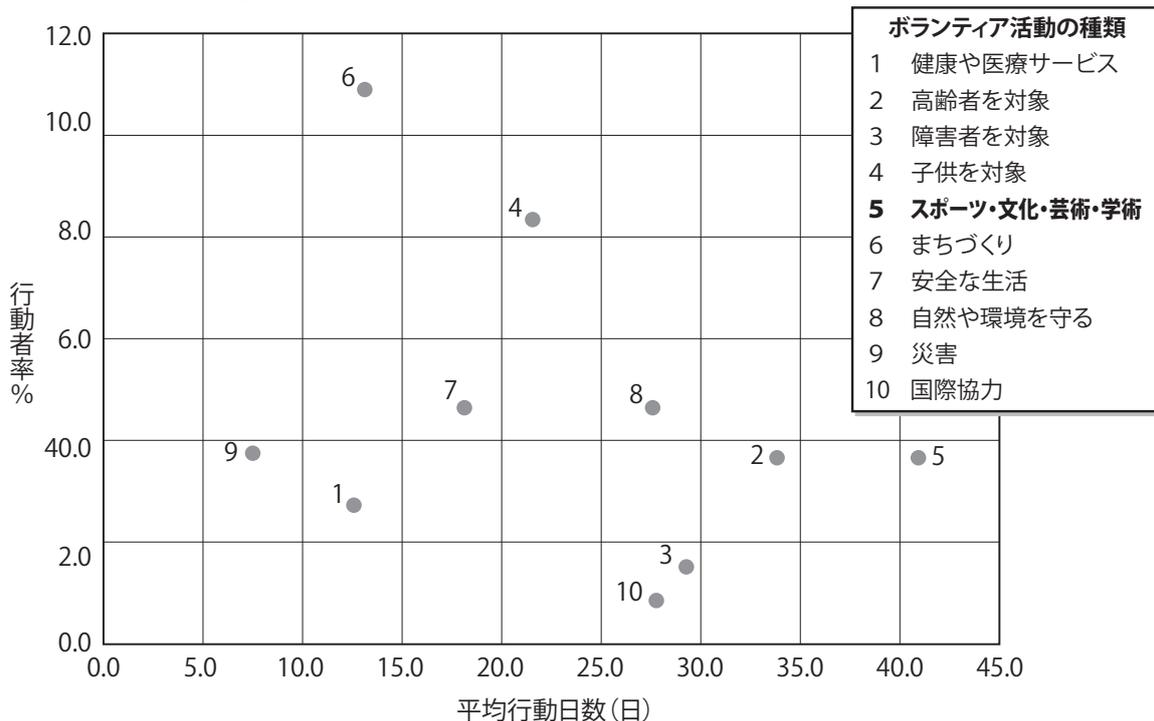
(笹川スポーツ財団「スポーツボランティア団体の活動に関する調査」2011年)

### 1-3 ボランティア活動の種類別行動者率

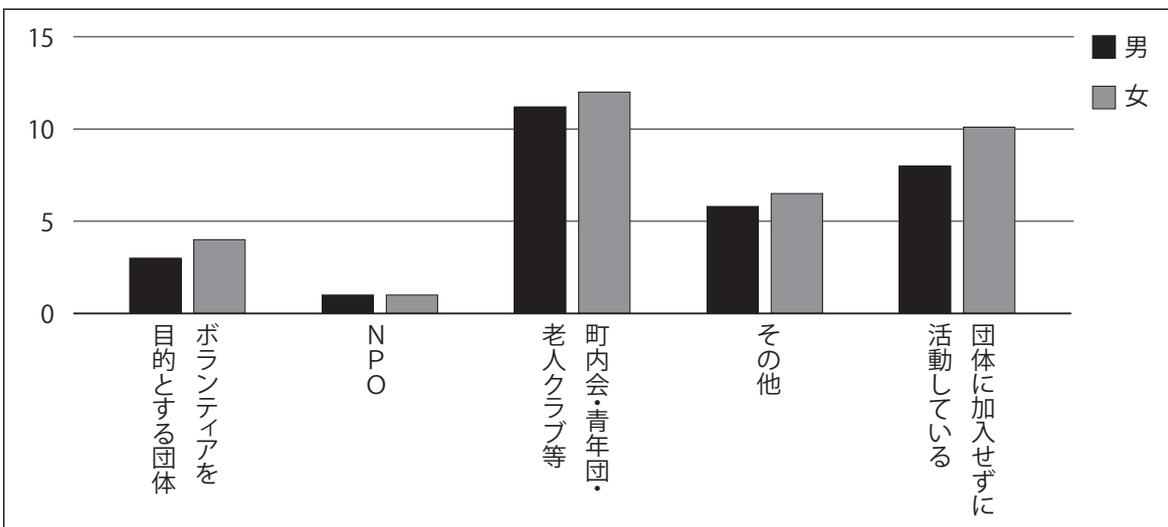
総務省の調査によると、ボランティア活動を種類別に見たときに最も行動者率が高い（参加する人が多い）活動は、まちづくりにかかわるものである。スポーツを含む「スポーツ・文化・芸術・学術に関わる活動」に参加する人は4%以下と決して多くはないが、年間の行動日数は40日（月に3日以上）を超えていることが、他の活動と比べて特徴的だと言える。なお、スポーツ関連のボランティア活動への行動者率を男女別に見ると、男性は4.4%に対し、女性は2.7%にとどまっている。

また、約7割の人が何かしらの団体に所属してボランティア活動を行っていることも分かっている。

●「ボランティア活動」の種類別行動者率



●男女、「ボランティア活動」の形態別行動者率



【参考】総務省統計局「ボランティア実施状況調査」（平成23年）

## 1-4 スポーツボランティアの組織と特徴

スポーツボランティア活動を行っている組織には、法人格を持って活動している団体も多い。ここでは、法人格別に4団体の活動内容を紹介する。

### ①スポーツボランティア東京

【法人格】任意団体（法人格を有さない団体）

【活動開始年】平成元年

【ボランティア登録数】なし（登録制度なし）

ドッジボール大会から活動をスタートし、要請に応じてイベントへのボランティア派遣を行っている。特に、子供たちのスポーツ・レクリエーション大会やイベントをこれまでに300回以上支援している。

### ②日本スポーツボランティア・アソシエーション（NSVA）

【法人格】特定非営利活動法人（NPO法人）

【活動開始年】2003年

【ボランティア登録数】208人

法人格を持たない任意団体の時代から、スポーツボランティアの養成と育成を第一に考えた活動を行い、特定非営利活動法人として設立。法人格取得後は、「東京シティロードレース2004」等で協力団体として名を連ね、助成金を受けて「障がい者ウォーク&ジョグ・伴走・指導教室」を全国各地で主催し、伴走者の育成と障害者へのスポーツ活動の機会を提供している。

### ③スペシャルオリンピックス日本

【法人格】公益財団法人

【法人の設立年】2012年（2001年～2012年は特定非営利活動法人として活動）

【ボランティア登録数】なし（登録制度なし）

知的障害のある人たちにスポーツをする機会を提供する国際的なスポーツ団体。都道府県ごとにトレーニングや競技会を実施する地区組織があり、本団体は国内活動のネットワーク拠点としての役割を持つ一方で、4年に1度（夏季・冬季2年おき）の全国大会を開催している。収入の多くは企業からの寄付で成り立っている。

### ④川崎フロンターレ

【法人格】株式会社

【活動開始年】1997年

【ボランティア登録数】約250人、1年毎の更新

Jリーグで活躍しているサッカーチーム「川崎フロンターレ」を運営している株式会社川崎フロンターレは、チームをささえるボランティアを登録し、スポーツボランティア活動を行っている。シーズン前に活動主旨を説明する講習会を行い、シーズン中はスタジアムでのチケットもぎり、場内案内や清掃といったスタジアム運営に携わる。またサッカーに限らず地域の祭り等でも活動している。

## 1-5 ボランティア活動における課題等

ボランティアという言葉が一般的に使われるようになった阪神・淡路大震災（1995年）の頃に比べると、ボランティア活動を行う人の割合は増えてきている。しかし、ボランティアを必要とする団体は、慢性的なボランティア不足を感じている。ここでは、ボランティア個人が感じる活動参加へのニーズと、イベント等を主催する団体にとっての課題を紹介する。

スポーツボランティアに限らないが、ボランティア活動への参加を希望するが実行に移せていない人や、過去に行ったことがあるが現在は活動していない人たちは、「時間がないからできない」「どんな活動があるのか情報がないからできない」と、2種類の理由を挙げることが多い。ボランティア団体では、こうしたニーズに応えるためにインターネットを中心とした情報提供を強化しており、さらに、団体の信頼性が伝わるような工夫をこらしたり、事故が起きた際の保障制度を充実させたりといった努力もしている。

一方で、ボランティア団体の課題として、登録者の高齢化、ボランティアリーダーの不足等が挙げられる。新しいボランティアを指導したり、まとめたりするのは経験豊富なボランティアリーダーの役割であり、新しい人が入りやすい組織をつくり、ボランティアが定着するように工夫することが必要である。こうした課題を解決するために、団体は各自取り組みを行っているが、上述の点は多くのボランティア団体が抱える共通の課題でもある。このネットワークを生かして、成功事例の共有等を行いつつ、複数の団体が共に連携して解決していくのがよいだろう。

## 2 スポーツ関連の法律変遷とスポーツボランティアについて

### 2-1 スポーツに関する法律等の流れ

スポーツボランティアの現状を考えるために、近年のスポーツに関する法律の変遷等をまとめておく。

#### ●スポーツに関わる法律

1961年	「スポーツ振興法」 東京オリンピック開催（1964年）を視野に入れ制定
1998年	「スポーツ振興投票の実施等に関する法律」 通称「サッカーくじ法」。Jリーグは1993年に開幕
2000年	「スポーツ振興基本計画」 地域におけるスポーツ環境の整備充実をめざす
2010年	「スポーツ立国戦略」 好循環を柱にスポーツ振興の明文化や「する人」「観る人」「支える人」の重視を明記
2011年	「スポーツ基本法」 スポーツ権ならびに行政の責任分担とスポーツ団体などの支援と環境整備を明記
2012年	「スポーツ基本計画」 「スポーツボランティア」が計画の14か所に明記
2015年	スポーツ庁の設置

### 2-2 スポーツ基本計画とスポーツボランティア

スポーツ振興基本計画（2000年）の総論には、スポーツを多様に楽しむ方法のひとつとしてボランティアが紹介されている。また、スポーツ基本計画においては、スポーツを「支える人」としてスポーツボランティアの現状が示され、さらにスポーツボランティア活動の普及促進に関する施策が明示されている。

#### ●スポーツ基本計画（文部科学省2012年3月30日策定）

第3章「今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策」より抜粋

（スポーツボランティア活動の普及促進）

- 国は、地方公共団体、大学・研究機関、スポーツ団体、民間事業者等と連携を図りつつ、スポーツボランティア活動に関する事例の紹介等の普及・啓発活動を通して、スポーツボランティア活動に対する国民の関心を高める。
- 地方公共団体においては、スポーツボランティアとして大きな貢献がある者を、例えば「スポーツボランティアマスター(仮称)」として認定しその功績を称えること等により、スポーツボランティア活動を奨励することが期待される。
- 地方公共団体やスポーツ団体等においては、地域住民が、日常的に総合型クラブをはじめとした地域スポーツクラブやスポーツ団体等の運営に参画できたり、校区運動会や地域スポーツ大会等のスポーツイベントの運営・実施やスポーツの指導に参画できる環境を整えることが期待される。

## 3 組織運営について

---

### 3-1 法人格を持つメリット

笹川スポーツ財団が2011年に行った「スポーツボランティア団体の活動に関する調査」によると、法人格を取得している団体は5割強（32団体中17団体）だった。

同じ目的を持つ人々でつくる、法人格を持たない団体のことを「任意団体」と呼び、大学のサークルやマンションの管理組合といった集まりがその代表例である。任意団体のメリットには、認可や登録が必要ないのではじめようと思えばいつでも可能であることが挙げられる。また、総会や理事会での合意といった「組織としての判断」が不要のため、思い立ったらすぐに行動に移せる機動性がある。

しかし、活動規模にかかわらず、法人格を取得することによって社会的信頼を得られることは組織にとって利点だと言える。以下、法人格を持つことによるメリットをまとめた。

- ①団体名による契約や登記が可能
- ②資金調達が容易
- ③責任の所在が任意団体と比べ明白
- ④官公署から事業委託・補助金が受けやすい

### 3-2 スポーツボランティアの組織に適した法人格

一般市民が非営利活動・公益活動を行うために比較的容易に設立できる法人には、特定非営利活動法人（NPO法人）がある。また、2008年に「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」が施行されたことにより、一般社団法人と一般財団法人も選択肢として増えた。

この3種類の法人格のどれがよいかを比較するには、設立にかかる期間、設立に必要な財産や必要な手続き、設立時やその後の事務作業（会計処理を含む）の難易度等、多くの要素が考えられる。

ここでは、ボランティア活動にふさわしい法人格としてNPO法人を推薦する。これは、NPO法人の活動内容が「公益の増進に寄与する活動に限られている」ため、社会的には「多くの人のためになる活動を行っている」と見られやすく、結果的に組織としての信頼性につながるからである。なお、税法に定められた34種類の収益事業を行っていないNPO法人の場合、課税されない一方で、一般社団法人・一般財団法人の場合は原則として、法人税と、市町村によっては法人住民税が課税されることも理由として添えておく。

	特定非営利活動法人 (NPO法人)	一般社団法人	一般財団法人	株式会社
設立手続き	諸官庁の認証と登記	登記のみ	登記のみ	登記のみ
設立時資金	不要	不要	300万円以上	資本金制度
設立者	正会員10人 理事3人 社員1人以上	社員2人以上 理事1人以上	理事3名以上 幹事1名以上 評議員3名以上	株主、取締役 各1名以上
事業目的	特定非営利活動を行うことが 主たる目的である必要あり	制限なし 一般の場合は公益性を問われない	制限なし	制限なし
税制優遇	原則非課税 収益事業について課税 毎年、所轄庁へ事業報告が必要	原則なし		全所得課税対象

### 3-3 NPO法人の社会的意義

NPO法人に関する法律である特定非営利活動促進法は、1998年に成立した。1995年に起きた阪神・淡路大震災で、ボランティアの活動が注目されたことがきっかけである。法律制定は、NPO法人が「行政でも営利企業でもない第三の主体として、国民の多様化したニーズに効果的かつ機動的に応えることができ、さらに、活動する人々が自己実現の意欲を生かすことができる」として期待された結果であった。

### 3-4 NPO法人の主な活動資金の種類

NPO法人の活動資金（収入源）を次の4つに分類する。安定した組織運営には、この4つの活動資金のバランスが取れていることが必要である。例えば、大きな受託事業や大口寄付金に頼って活動している場合、それを失うと財政基盤が揺らいでしまい、活動存続の危機に陥ることになる。

- ①寄付金・会費
- ②助成金・補助金
- ③セミナー、イベントの参加料収入（書籍・グッズの販売収入等）
- ④行政や企業からの受託事業収入

### 3-5 資金調達のアイディア

NPO法人の資金調達のアイディアとして、次の3つを紹介する。

#### ①寄付金と助成金

寄付金は継続性がなく、活動に対して賛同した者から見返りを期待せずに拠出される金銭や財産のこと。助成金は、NPOが主体となって行う事業や研究に対して、その意義を認めた民間の基金や財団等が事業の遂行の手助けとして資金を提供するもので、多くは一定の審査を経て助成が決定される。

#### ②NPO法人における寄付

企業の場合、顧客は購入代金を支払って商品やサービスを受けるが、NPOの場合は寄付金を支払う顧客（この場合は会員や寄付提供者）とサービス等を受ける顧客（受益者）が異なる。

寄付とは単に募金することではなく、寄付者は寄付を通じて社会にとって大切な働きを担っていると捉えられる。団体が寄付者へ提供できるのは、社会貢献をしているという精神的な満足感である。また、団体にとって寄付は単なる資金調達的手段ではなく、人々に理解を訴え、共感を呼び覚まし、募金というアクションを通じて活動に参加してもらうこと等に重要な目的を持つ活動である。

#### ③助成金の活用

助成プログラムにはそれぞれ資金提供者の意図があるため、自分達が目指している活動と、提供者の意図がずれている場合に申請が採択されることはないので注意したい。その意図は応募要項等、助成公募先からの提供資料に書かれている。申請準備を進める前に確認と検討が必要である。なお、申請書を書くときには、①活動の理念・使命、②実施しようとしているプロジェクトが解決する社会的課題の重要性、③自らの情熱の3点が伝わるよう簡潔にまとめることが大切である。

（特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会ホームページ <http://www.npoweb.jp/>）

# コミュニケーションスキル

## 1 グループワーク

### 1-1 グループワークへの学術的理解

スポーツボランティアでは、ボランティア全員がひとつの目標に向かって活動することが成功への大前提である。そのためには、一人ひとりのボランティアはもちろんのこと、とくにリーダーのコミュニケーション力が欠かせない。コミュニケーション力の向上に有効な手法として「グループワーク」がある。

グループワークは、正式にはソーシャル・グループ・ワーク (social group work) といい、アメリカ社会事業理論において、ケースワーク・コミュニティ・オーガニゼーションと並んで、主要な方法・技術のひとつとされる。これについて広く知られているジゼラ・コノプカ Gisela Konopka (1910—2003) による定義は、次の通りである。

「社会事業のひとつの方法であり、意図的なグループ経験を通じて個人の社会的に機能する力を高め、また、個人、集団、地域社会の問題により効果的に対処しよう、人々を援助するもの」



## 1-2 スポーツボランティアにおけるグループワーク

スポーツボランティア・上級リーダーの役割は、各リーダーへの活動内容伝達と進行状況把握、および活動内容の修正等だが、活動がうまく進行していないときほど、各リーダーへの的確な情報伝達が重要となる。ここで大切なのは、他のボランティアに心地よく活動してもらうための的確な言葉がけと心のゆとりを持って活動に臨むことである。心のゆとりを持つためには、次のような事前準備を万端にしておくことが望ましい。



- ①起こりやすいトラブルを書き出し、対処法を具体的に考えておく。
- ②理想とするスポーツボランティア・上級リーダー像について、具体的に書き出してみる。

- ①起こりやすいスポーツボランティア・リーダーのトラブル  
起こりやすいトラブル事例を書いてみましょう（各100字以内）。

●

---

---

---

---

---

---

---

---

●

---

---

---

---

---

---

---

---

●

---

---

---

---

---

---

---

---



## 2 スピーチ、プレゼンの仕方

### 2-1 話し方の基本

ボランティア・リーダー以上になると、複数の人に話しかける機会が増えると思われる。スポーツボランティア活動に必要な「話し方」として最も重要な要素は、正確に伝達することである。内容を正確に伝えるためには、できるだけ短く明快な文章であることと、適切な言葉の質、音量が求められる。また、正確な「話し方」に、多くのプラスアルファを加えることで、相手により印象を与えられ、より話が伝わりやすくなったり、活動をスムーズに行いやすくなったりする。プラスアルファの例として、次にいくつか例を挙げておく。



#### ①どんな場面での「話し方」なのかによって、話し方を変える

- ・スポーツボランティアとして…… 活動の目標を意識して話す
- ・ボランティアリーダーとして…… 相手と目線を合わせ、心地よく聞いてもらえるように意識して話す
- ・発表の場で…… 緊張や、時間を守ることを考え、事前に準備する

#### ②自己紹介での「話し方」を大切にする

- ・与えられた制約を守る …… 時間を気にしつつ、主題と自分の思いを伝える
- ・正直な気持ちを伝える …… 飾らず正直に
- ・聞く側の支援を得る …… 威張った態度等をとらないことで、聞く側から共感を得られる

### 2-2 正確に伝え聞くために YES NO GAME

正確に伝えることには、様々な難しさがある。以下、難しさの例と対処法を挙げる。

#### ①正確に伝えることの難しさ

- ・思い通りに伝わらないとイラダチを感じてしまう  
…………… 全ては自分の責任だという精神で話す
- ・やさしく伝えることが難しい …… 常に聞く側の立場・気持ちになって話す
- ・発信側と受信側の能力差 …… 相手のレベルを理解して話す

#### ②YES・NO問答（ゲーム展開）

- ・相手の気持ちになるための実践 …… 自分勝手な質問が問題
- ・絞り込みの手順を整理する …… 体系的な手法を心得る
- ・問い詰める側の責任が全て …… 問いかける側に問題がある

## 2-3 1分間スピーチ

ここからは、具体的な話し方（スピーチ、プレゼン）のトレーニングをいくつか紹介する。まずは、どんな場面でも落ちついて話すことに慣れるための「1分間スピーチ」を挙げる。

これは、突然与えられた言葉について1分間話をするというトレーニングである。与えられた言葉についての知識が豊富であれば有利なように思えるが、話の的が絞れず、まとまらない危険性もある。

### 1分間スピーチの10のポイント

#### ①身なりを整える

話す内容を考えることばかりがスピーチの準備ではない。スピーチにふさわしい身なりを整えることも非常に重要である。1分間という短いスピーチの場合、スピーチの内容自体で勝負するには限界があり、逆に、その人が醸し出す雰囲気や第一印象がスピーチの善し悪しを左右することもあるからだ。「Tシャツと穴の開いたジーンズにビーチサンダル」と「パリっとしたシャツとチノパン、革靴」、どちらが聞きたいと感じてもらえるかは、自明である。

#### ②呼吸を合わせる

緊張したままスピーチをはじめると、焦ったり慌てたりして思い通りのスピーチができないものである。スピーチをはじめの前は、聞き手と“呼吸を合わせる”ことが大切である。聞き手の前に立ったら、まず一呼吸おき、会場全体をゆっくりと見回し、会場と自身をひとつにする。一呼吸おくことで聞き手も話し手に注目し、ざわつきも収まりやすい。

#### ③主張・論点を明確にする

どんなスピーチにおいても「話すテーマは何か?」「その中で最も伝えたいメッセージは何か?」を明確にしておくことは重要である。1分間スピーチで多いのは自己紹介だが、自己紹介の場合、すでにテーマは決まっているため、大切なのは、「最近一番笑ったこと」や「将来の夢」を加えるのかなど、「最も伝えたいメッセージは何か?」を決めることである。「名前・年齢・趣味・特技」なのか、話の内容に何を選ぶかを決める際は、次に挙げるように、「聞き手の立場に立つ」ことが必要になる。

#### ④聞き手の立場に立つ

“最も伝えたいメッセージ”を決めるにあたり考慮しておいた方がよいのは、「聞き手は何を知りたいと思ひ、何に興味があるか?」である。自分の話したいことより、そこがどういう場であり、聞き手は何に興味があるのかという視点で「最も伝えたいメッセージ」を選択することにより、聞き手の心をつかむことができる。

#### ⑤笑いをとる

スピーチ成功のためには、はじめに笑いをとることが非常に有効である。日本人の習慣にはあまりないが、アメリカ人のスピーチを聞いてみると、最初に聞き手を笑わせることが多い。心理学論文の説明のようにシリアスな話題でも、はじめに聞き手を笑わせるちょっとした皮肉（Irony）を使うことがある。日本でも、落語では本編に入る前に「マクラ」から入る。スピーチでも、「マクラ」の感覚で笑いをとると、会場の雰囲気や和らぎ、自分の気分も楽になる。

#### ⑥味方を見つける

スピーチの最中は、原稿ではなく、聞き手の目を見て話すのが基本である。聞き手の中には、話に興味を示さなかったり、無表情だったり、つまらなそうだったりする人もいるが、話に興味を示し、笑顔でうなずく人もいる。スピーチの最中はそういった「自分の味方」をまず見つけ、その人たちに向けてスピーチするつもりで話してみるといい。そうすることでスピーチが流れに乗り、勢いが出る。スムーズで勢いのあるスピーチは、好印象に映るはずである。

#### ⑦動作まで練習する

「感情や態度について矛盾したメッセージが発せられたときの人の受け止め方について、人の行動が他人にどのように影響をおよぼすか」という、話の内容等の言語情報が7%、口調や話の早さ等の聴覚情報が38%、見た目等の視覚情報が55%の割合である」という、メラビアンの法則がある。これによると、人は視覚から最も多くの情報を取得し、話の内容等からはわずか7%しか情報を取得しない。スピーチでも「どうやって話すか」が重要だということだ。話の展開に合わせて身振り手振りを入れる、話題が展開する時に立ち位置を変える等の動作をスピーチに加え、それも練習しておくことで、スピーチに立体感が出る。聞き手に対して言語情報・聴覚情報のみならず、視覚情報でも訴えることができる。

#### ⑧本番の会場で練習する

可能ならば、本番の会場に一度立ち、その場の雰囲気を味わい、何度かスピーチを練習すると、当日の緊張を和らげることができる。また、さらに可能であれば、本番の会場で聞き手側にもなってみるとよい。会場の椅子に座り、自分がスピーチをしているイメージを膨らませながらステージを客観的に見ることで、「自分がどう見えているか」が分かり、「どのように見せた方がよいか」等のアイデアも浮かびやすい。

#### ⑨繰り返し練習する

スピーチ成功のために、練習をしっかりとすることに勝つことはない。「これだけやったのだから大丈夫だ！」という自信に充ち溢れた、情熱のあるスピーチは、どんなテクニックよりも人を惹きつける力がある。特に冒頭を入念に練習するといい。冒頭でよい流れをつくることのできれば、そのあとはスムーズに流れる。

⑩経験を重ねる

練習より、本番での経験を積むことが、的確な話し方をマスターするために重要である。また、「下手ですが聞いてください」等の導入があると、聞き手も協力してくれる空気が生まれる。

〈1分間スピーチの原稿例〉

【設定】例：東京駅伝2016で、ボランティア集合後のオリエンテーション前の挨拶として（1分間原稿）

→	本	日	は	早	朝	よ	り	ご	参	集	い	た	だ	き	あ	り	が	と	う
ご	ざ	い	ま	す	。	私	は	今	回	の	東	京	駅	伝	A	ブ	ロ	ッ	ク
を	担	当	し	ま	す	東	と	申	し	ま	す	。	ま	だ	ま	だ	経	験	と
知	識	が	足	ら	な	い	と	思	い	ま	す	が	A	ブ	ロ	ッ	ク	に	関
わ	る	ボ	ラ	ン	テ	ィ	ア	、	ひ	と	り	ひ	と	り	の	お	力	を	い
た	だ	き	、	今	回	の	A	ブ	ロ	ッ	ク	が	目	標	と	す	る	正	確
で	心	地	よ	い	参	加	者	誘	導	を	め	ざ	し	て	い	き	た	い	と
思	い	ま	す	。	な	お	こ	の	場	に	ご	参	集	い	た	だ	い	て	い
る	ひ	と	り	ひ	と	り	の	力	と	、	そ	の	チ	ー	ム	ワ	ー	ク	で
私	た	ち	の	活	動	目	標	を	達	成	で	き	る	と	確	信	し	て	お
り	ま	す	。	そ	こ	で	、	大	変	恐	縮	で	す	が	、	「	が	ん	ば
り	ま	し	よ	う	」	の	握	手	を	お	互	い	に	交	わ	し	た	い	と
思	い	ま	す	。	ご	協	力	い	た	だ	け	る	よ	う	、	お	願	い	い
た	し	ま	す	。	で	は	握	手	を	ス	タ	ー	ト	し	て	く	だ	さ	い
。	ど	う	ぞ	！															



## 2-4 スピーチの要素

“I have a dream”は、マーティン・ルーサー・キング・ジュニア、通称キング牧師が、人種平等と差別の終焉を呼びかけた演説で使われた有名なフレーズだ。その後、キング牧師は1964年にノーベル平和賞を受賞し、アメリカでは1月の第3月曜日が、キング牧師の業績を讃える記念日として祝日となっている。また、バラク・オバマ大統領は、初めての大統領選挙で“*Yes, We Can*”というフレーズを使い、国民を魅了した。このように、アメリカの、社会的評価の高い人はスピーチのスキルも高いことが多いようだ。日本ではスピーチの勉強をする大学は一般的でないが、アメリカの大学では、一般教養として「スピーチ」のクラスがあり、必須科目として設置されている。

## 2-5 話し方コラム

話し方について、心に留めておくべきことを下に列挙する。頭の片隅においておくだけでも、スピーチをする際に役立つ。

- ①「話し方」で何を話題にするにしても、正しく伝える力がないとすべて無意味。
- ②世の中にはすぐに好かれる人がいる。しかし、なかなか好意的な態度をとってもらえない人が数多くいるのも事実である。
- ③誰もがこちらに振り向いて耳を向けてくれる話し方。どんな話題であっても楽しく感じさせられる話し方。話を聞いている人が笑顔になる話し方を心がけるべきだ。
- ④意思伝達が上手になると、魅力的な人間になる。
- ⑤話し方を変えただけで、面白い人、頼れる人、真面目な人など、相手に与える印象を自由にコントロールできる。
- ⑥「もっと話が聞きたい」「もっとあなたのことが知りたい」など、会話は、相手の心を引き寄せるツールとなる。
- ⑦人の魅力は人それぞれからにじみでてくるものである。話し方を変えることで、より、魅力を伝えられる人間に変わることができる。
- ⑧話し方を変えられるということは、人、環境に合わせて自由に演じられる、ということである。相手と、よい関係になれるかどうか話し方で決まる。
- ⑨わかりやすい話し方をすると、魅力を正しく伝えることができ、相手に影響を与え、好感をもってもらえる。
- ⑩自分では面白い話をしたつもりでも、聞き手には面白く感じなかったり、伝えたい情報が正しく伝わらなかったりすることがある。ときには誤解されることや怒らせてしまうときもある。そんなつもりで話をしたわけではなくても、話し方が悪いことで聞き手が否定的に受け取ることがある。
- ⑪コミュニケーションを交わしてはじめて自分の魅力を伝えられる。
- ⑫まず話をしないことには、誰にも、何も影響を与えられない。
- ⑬好かれやすい人は、自分の思いを誤解されずに正確に伝えられる人である。
- ⑭明日から「会話力」がつくことはない。
- ⑮わかりやすい話し方ができない人は、コミュニケーションがうまくいかない。
- ⑯聞き手に協力者がいると、よいムードをつくりやすい。
- ⑰「そんなつもりではない」と思っても、相手を感じたことがすべてである。

## 3 ボランティアの適材適所

### 3-1 過去の活動実績

スポーツボランティア活動場面は様々で、全く同じ状況下での活動はない。そのなかで、自分にはどんな活動が向いているのかという自己判断と、あの人は何に向いているかの他己判断が必然的に生まれる。リーダーは、こうした判断により、他のボランティアを適材適所に配置する必要がある。また、各人にとって、積み上げてきた活動実績は貴重な財産であり、「何に向いているか」を判断するのにも役立つ情報であるため、スポーツボランティアの活動履歴は残しておくといよい。

#### ●活動履歴（例）

日	イベント名	活動内容	役割（ポジション）	メモ
3/20	東京駅伝2013 東京都・味の素スタジアム	走路安全確保	リーダー	天候：晴れ 風強
6/23	全日本ユース新体操選手権大会 東京体育館	会場整理	リーダー	天候：晴れ

### 3-2 性格の分類を把握する

適材適所の人員配置を考える際は、その人が持つ特種なスキル以外に、それぞれの「適性」を把握し、生かす必要がある。適正を把握するには、次のような項目で考えるとわかりやすい。

【行動関連】		←NO・・・YES→
社会的内向性	対人的に積極的か	[1・2・3・4・5]
内省性	考えることが好きか	[1・2・3・4・5]
身体活動性	運動が好きか	[1・2・3・4・5]
持続性	物事に対し粘り強く取り組むか	[1・2・3・4・5]
慎重性	正確に作業を進められる慎重さがあるか	[1・2・3・4・5]
【意欲関連】		
達成意欲	高い目標を持ち、達成する意欲があるか	[1・2・3・4・5]
活動意欲	決断、実行が早い	[1・2・3・4・5]
【情緒関連】		
敏感性	自分や周りの感情に敏感か	[1・2・3・4・5]
自責性	失敗したときに、悲観的になりやすいか	[1・2・3・4・5]
気分性	感情が表に出やすいか	[1・2・3・4・5]
独自性	自分の考え方を重視しているか	[1・2・3・4・5]
自信性	自尊心が強い	[1・2・3・4・5]
高揚性	感情の高まりやすいか	[1・2・3・4・5]
【信憑関連】		
信頼性	正直に回答しているか	[1・2・3・4・5]
【体力関連】		
持続性	長時間の活動に耐えられるか	[1・2・3・4・5]
瞬発性	重い物を持つことが可能か	[1・2・3・4・5]

### 3-3 総合判断での適材適所

適材適所の人の配置には、実績・スキル・適正、そして体力の4要素を加味して総合判断をする必要がある。ただし、現場では時間的な余裕がなく、リーダーは即時に決断せざるを得ない場面が多い。そのような時に頼りになるのは、過去にも一緒に活動したことのある、よく知ったボランティアの存在である。ただし、見知ったボランティアばかりに頼るのではなく、新しいリーダーを見い出す努力も怠ってはならない。

## 4 イベントの企画・運営・反省

### 4-1 イベントの企画

スポーツボランティア・上級リーダーとして、最低限押さえておきたいイベント・行事の企画・運営の基本を紹介する。イベント成功への道には、様々な努力と工夫が必要不可欠であり、知識と経験がどこまで生かせるか等も把握しておきたい。

#### ① イベント企画・運営での課題

どのようなイベント企画においても、数多くの人々が集まることで、様々なダイナミクス（力学）が発生する。たとえばイベントの目的遂行にあたっては、人・場所・時間・経費など、主催者は数々の制約を受けることとなる。特に「人」にかかわる制約では、参加者が協力的にかかわってくれる保証はないため、トラブルが発生しやすいといえる。

なお、「イベント」では、参加者をどのようにコントロールできるかが最も重要かつ難しいポイントとなる。あらゆるイベント企画、ボランティア活動において、「いかに心地よく参加し、動いてもらえるか」が課題として共通している。

#### ② 行事の基本

行事の企画・運営の基本を充分心得ていても、それぞれの現場においては、さまざまな問題が発生することとなる。問題発生時には、今一度イベント企画の基本に戻ることで、その原因が何であったかを発見することができる。

「企画する・準備する・実施する・反省する・次の企画に活用する」という企画の原則は、どんなイベントにおいても変わらない。ただし、それを実施するにあたり、恒例行事のマンネリ化、資金不足、人手不足、少ない参加者、会場の選定等、様々な制約が問題点として登場してくる。

#### ③ 企画する

イベントの企画にあたって最も配慮すべきなのが、経費の問題である。経費が湯水のごとくあればどんなニーズにも十分な対応ができるが、必ずしもそうはいかない。与えられた条件をフルに活用して、企画に関わることが求められる。

#### ○ 具体的な行事企画をめざして！

具体的なイベント企画では、それぞれの実施団体（主催者）等の様々な条件・環境や制約を加味しながら、全体的な企画を立てていく必要がある。また、行事自体は大きく4つの構造に別れる。行事コンセプト・行事名称・行事パーツ・行事種目である。この4つを組み合わせ、バランスを取ることで様々な行事を組み立てることができる。

行事企画						
行事コンセプト	+	行事名称	+	行事パーツ	+	行事種目
主催者：条件・環境・経験・能力・組織力						

#### ④行事の多目的化

何を求めて行事に参加するかについては、参加者と主催者との間に差異が生まれる可能性がある。互いの狙いが見事一致した場合には、参加者からの喜びが主催者に伝わり、喜びの共有が成立する。しかし、参加者サイドの参加目的は、主催者の思惑を越えて実に様々である。例えば、スイミング教室を行事と考えると、その行事に参加する目的は、健康増進、健康維持、リハビリ、気分転換、仲間づくり、泳法修得、情報集め等、数多くある。なかには、スイミング教室の雰囲気に関わるだけで満足だというケースもある。

#### ⑤恒例行事の考え方

恒例行事もイベントのひとつである。恒例行事の代表、年中行事は、毎年同じ時期に似たような内容で行われることが多い。手慣れたスタッフにとっては、長年培われた段取りと決めごとから、不安は薄く、活動しやすい。逆に、そうした恒例行事の企画や運営に入ろうとする新人には、相当の負担がかかる。一方、恒例行事で実によく発生する問題として挙げられるのが、「マンネリ」への対応である。新たな工夫によりマンネリからの脱却を求める声が上がることが多いが、本来のイベント主旨を忘れた形で内容が変わっていく危険性もあることを忘れてはならない。

- ・ 行事としてのコンセプト（基本的な目的への柱）からずれていないか？
- ・ 行事内容の変更によって、参加者との迎合が起きていないか？
- ・ 行事内容変更にあたり、大・中・小の変更のうち、どれがベストか？
- ・ 行事内容のマンネリより、主催者自体の心のマンネリが起きていないか？
- ・ 過去に積み重ねてきたイベント評価を、正確に分析したか？
- ・ 社会的トレンド（時流）との兼ね合いをどのように考えて合わせているか？
- ・ マンネリを主張する人々の意見を集約し分析してみたか？
- ・ 中身は変えずに、包装紙を変えるだけで大きく様変わりをするところを経験したか？（例：サブタイトルを付けただけで、大きくイメージが変わる）
- ・ よいところをしっかりと守りながらも、内容等を変えることができるか？
- ・ 伝統の大切さとその意義について、充分認識してマンネリを判断したか？

#### ⑥行事でのベネフィット

ベネフィット（Benefit）とは、英語で「便益」を示す。行事におけるベネフィットとは、行事を実施することで参加者や主催者・スタッフが得られる様々な効果・利益・価値・意識の向上などを指す。ベネフィットは、多くの場合、行事自体がうまくいった場合に発生する。しかし、失敗した行事であっても失敗から反省し、次回への教訓を得られるチャンスだと捉えれば、失敗行事からもベネフィットを得ることができる。

ベネフィットは、主催者のもくろみを超越して、思いもよらぬ形で現れることが多々ある。参加した多くの人々にとってベネフィットが共通した形で現れることを目指しながらも、形を変えて、出現してくることも心得ておく必要がある。参加者のベネフィットが多岐に渡る個性の時代を迎えて、主催者自身のベネフィットも変化と多様性を求められる状況に入ってきている。

### ⑦行事ターゲットはどこに

実施する行事のターゲット（対象）に多くの層を取り込む程、行事の難易度は高くなる。逆に、年齢、興味対象等によってターゲットを絞り込んで行事を開催する場合、そのターゲットに合った行事内容を選択しやすい。また行事ターゲットを絞り込むことで、スタッフは安心感をもって進行することができ、それが参加者への安心感につながる。しかし、行事の目的によっては、異世代間の交流を図るプログラムを必要とする場合もある。様々なターゲットの人たちが数多く加わることで生み出されるムードは、さらなる異なった空間をつくり出し、「人と人との新感動」を生み出す場となる。

### ⑧行事計画の5W1H

行事の骨組みとして常に登場するのが「5W1H」である。「5W1H」：when（いつ）・where（どこで）・who（誰に）・what（何を）・why（何の目的で）・how（どのように）を踏まえることによって、行事企画の第一歩がはじまる。なお、5W1Hは行事企画書の柱にもなる。

- when（いつ）

開催日と予備日を決定する時は、主催者の都合を最優先とする。内容や参加者の都合・天候等も充分考慮して、慎重に決定する

- where（どこで）

会場名と住所会場名は、その知名度によって紹介の分量が異なってくる

- who（誰に）

参加対象者に混乱が生じないように、明確に示しておくことが必要

- what（何を）

どのような種類の行事をするのか、できるだけ具体的な名称を使い、イメージしやすい言葉で紹介する

- why（何の目的で）

主催者が参加者に伝えたい、行事で達成しようとする目的

- how（どのように）

行事で行う競技種目等の具体的な内容

## 4-2 行事企画書のつくり方

企画書の作成方法や書き方は、実施する行事によって異なる。ただし、多くの場合この違いを十分に表現しているのが、企画書に付随させる実施計画書となる。また、代表的なものでは、運動会の実施計画書や舞台での進行台本等がその見本となる。

<実際の書き込み例>

行事企画書は実施する団体の状況に合わせてつくるため、以下の例では、特別個別的内容は省略してあるが、多くの場合、これ位の内容で実施対応できることが多い。

### ●大会企画書&進行表（実行委員会承認済み）2013年4月27日

イベント名	平成16年度4小学校交流ドッジボール大会 主催：大会実行委員会	会場	さくら区立第四小学校校庭 (雨天時：体育館)		
実施日	7月20日（祝）	時間	午前10時：00～午後15：00		
目的	各校児童の相互の交流を深め、日頃の練習の成果を発揮して、子供同志の親睦をはかることを目的とする。				
参加PTA校	・第四小学校PTA（上田会長）・南前野小学校PTA（片野会長）・若木小学校PTA（高橋会長） ・西台小学校PTA（雙田会長）（ ）は各PTA代表者。				
<b>【時程】</b>		<b>【準備物】</b>			
8:00	会場校にスタッフ集合、会場準備打ち合わせ	参加児童持参品：お弁当・体育着・運動靴・体育館用運動靴・タオル 本部準備品：筆記用具・ガムテープ・参加申込書・賞状・賞品・参加者名簿・対戦表トーナメント&リーグ戦（掲示用・A4）・選手変更名簿・救急用品・靴入れ用ビニール袋・ドッジボール4個・審判用ホイッスル10個・ライン用石灰 学校借用品：ライン引き・体育館・長テーブル8脚・折りたたみ椅子15脚・黒板1台・放送器具一式（利用後の完全返却・確認）  <b>【参加募集申込み】</b> 1.参加者を希望するチームは、申込書に出場クラスとチーム名と参加者名全員の氏名（7人以上10人以下）を書いて7月15日までに、各担任を通して、各校PTA会長へ			
10:00	選手集合（大会本部進行係へ参加選手の報告）				
10:15	開会式 司会 [大会総務委員長] ①開会のことば 第四小学校校長 ②大会会長挨拶 第四小学校PTA会長 ③各委員長紹介 総務・進行・会場・審判 ④ルール説明 審判委員長 ⑤選手宣誓 第四小学校児童 東西 元君 ⑥準備体操 審判副委員長 予選リーグ戦開始				
10:45	予選リーグ戦終了				
12:35	決勝トーナメント開始				
12:40	決勝トーナメント終了				
14:15	閉会式 司会 [大会総務副委員長] ①成績発表 進行委員長 ②表彰 大会会長 ③講評 審判委員長 ④総評 西台小学校PTA会長 ⑤閉会のことば 西台小学校校長 参加者解散				
15:00	片付け終了				
17:00	反省会				
<b>【試合形式】</b>					
①クラス分け：小学1～2・3～4・5～6年の部					
②予選リーグ戦（3チームのリーグ戦を実施、勝率及び得失点差により、1チーム決勝進出。）					
③決勝トーナメント戦は、準決勝で負けた者を3位とする。					
④全ての試合は、1試合1セット制でおこなう。					
⑤大会が独自で定めた本大会ルールを優先するが、日本スーパードッジ連盟のルールを基本とする。					
<b>【表彰について】</b>					
①各クラスで1位～3位までの4名に賞状・賞品を授与。3位は、2チームとなる。					
②参加者全員に汗拭きタオル進呈。					
審判紹介：審判委員会では、4小学校PTAの保護者から、ドッジボール経験豊かな保護者を審判員として特別トレーニングしており、大会の審判の任にあたります。					

<企画書フォーマット例>

以下は、一例として示したものの。自分自身が解り易い書式を設定するとよい。

企画書名：                      企画書                      年      月      日現在					
行事名：				実施日：	
サブタイトル：				時間：	
会場：			主催団体：		
主管団体：			後援・協力団体：		
目的：					
内容：					
参加対象者：		参加者数：		障害者対応：	
準備物：					
申し込み方法：			参加費：		
問い合わせ先：			進行表：		
雨天対応：					
行事事務局：					
行事経費：					
スタッフ数：					
企画責任者：					
承認印・サイン	大会会長印	大会事務局長印	総務委員長印	企画委員長印	企画担当委員印
	TEL	TEL	TEL	TEL	TEL

©AZUMA

# 日本スポーツボランティアネットワーク(JSVN)

## 1 活動について

### 1-1 設立意義と目的

2010年度の笹川スポーツ財団調査によると、47都道府県中14府県、18政令指定都市中6市に「スポーツボランティアバンク」が設置されており、ボランティアバンクは1999年から現在まで、年を追うごとに組織化されている。他方、過去10年間スポーツボランティア活動の実施率および実施希望者は、いずれもほぼ横ばいであることが明らかとなった。

このようななか、スポーツイベントを主たる活動とするスポーツボランティア組織の共通課題は、登録ボランティアへの活動機会の提供である。なかでも国際大会や国民体育大会開催のために立ち上げられた組織では、それ以降の活動機会が少なくなり、登録者数が減少する状況にある。スポーツ施設やプロスポーツクラブなどの活動母体があるボランティアは別として、活動母体がない民間のボランティア組織は、活動率の低下とともに今後の組織の存続が危惧されるところである。

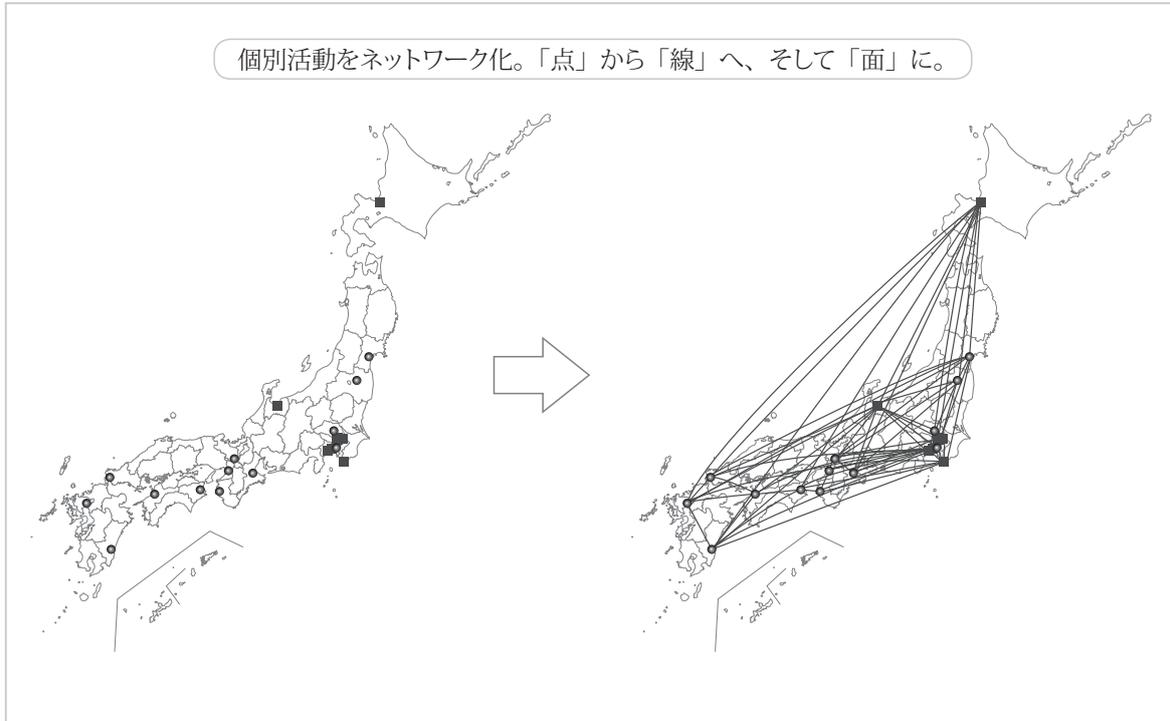
一方、2007年はじまった東京マラソンを契機に、スポーツボランティア活動の意義が広く社会に認知されるようになり、各地で開催されるスポーツイベントの成否にスポーツボランティアが大きく影響を与えるようになってきていることから、今まで以上にボランティア個人およびスポーツボランティア組織とボランティア受け入れ側との相互理解を深めることが重要となる。

今後、前述の課題に取り組むとともに、スポーツボランティア活動を全国に浸透させ、文化として確立するためには、全国各地のスポーツボランティア組織が「地域を越えた組織間連携を図り、活動状況を共有する」ネットワークを形成することが必要である。また、ネットワーク化により更に多くの活動機会の提供が可能となり、それぞれの組織活動を活発化することができる。

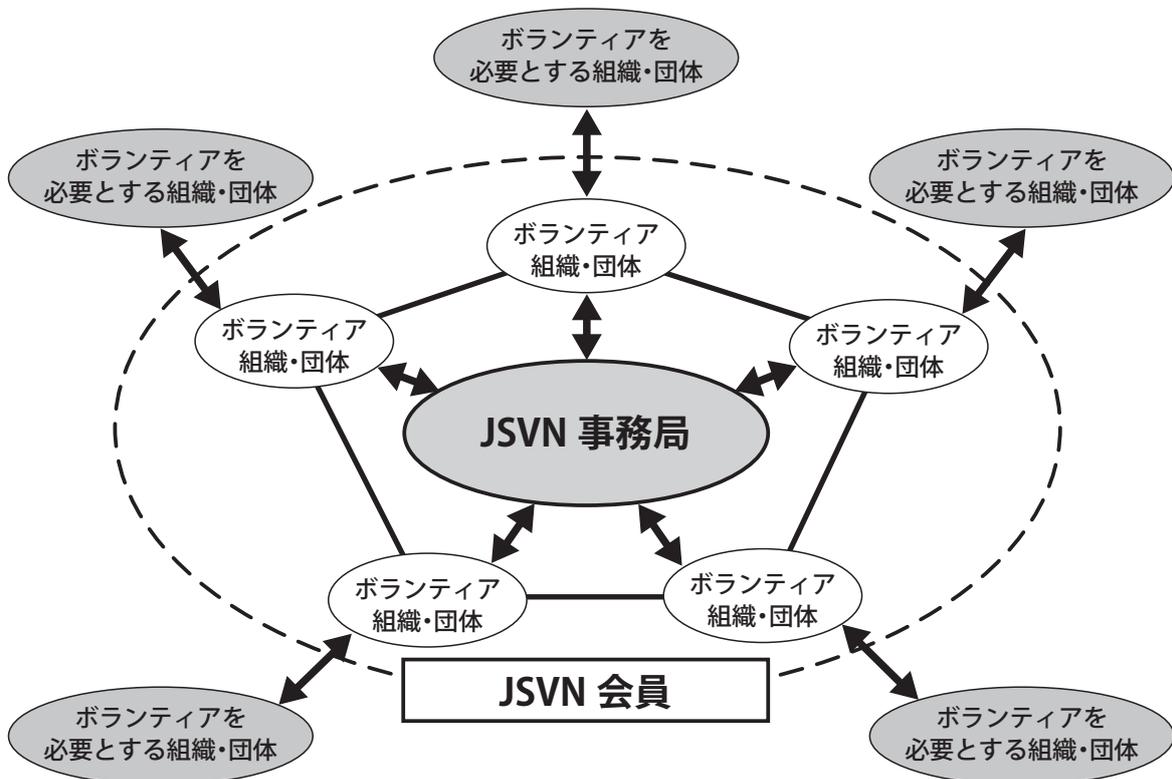
日本スポーツボランティアネットワーク(JSVN)は、前出のような現状をふまえ、「我が国のスポーツボランティア文化の醸成を図り、国民の生涯にわたるスポーツ活動を通じた豊かな生活の形成に寄与すること」を目的に、2012年に組織された特定非営利活動法人である。

全国でスポーツボランティアバンクを設置している都道府県は13、日本スポーツボランティアネットワーク会員団体は16であり、その他にも、国内で活動するスポーツボランティア組織が多くある。

●国内で活動するスポーツボランティア組織のネットワーク化イメージ



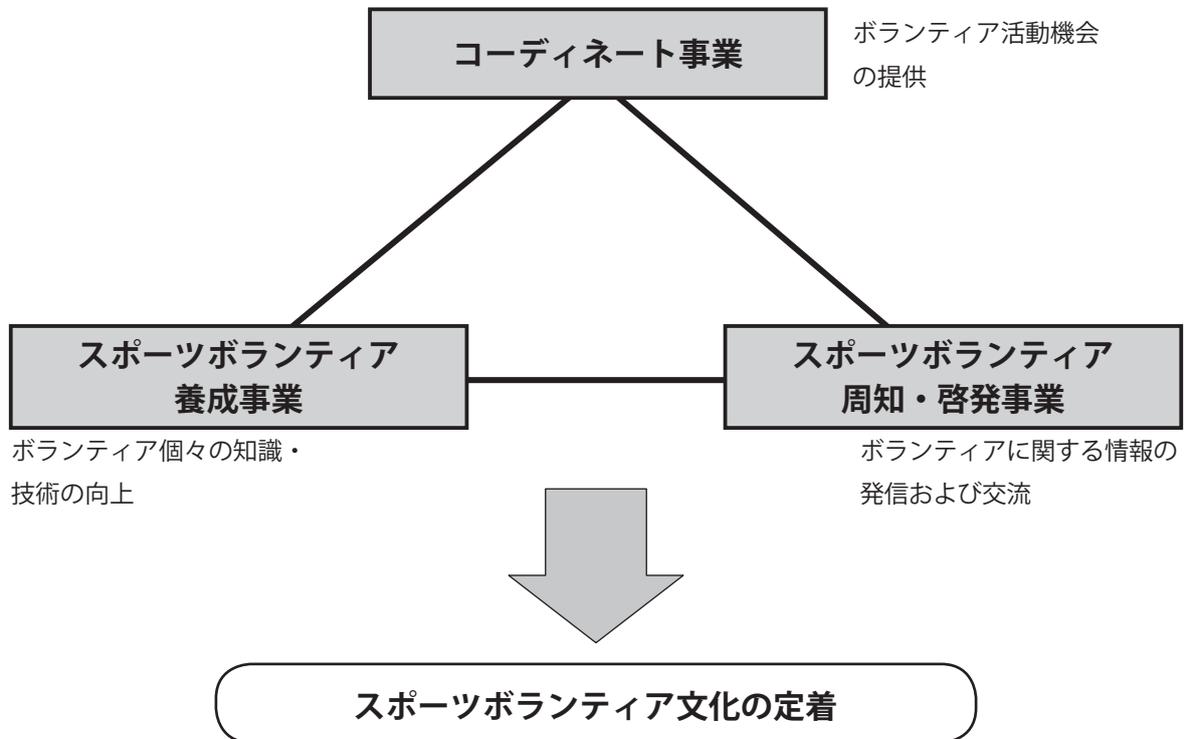
●JSVNと各ボランティア組織、ボランティアを必要とする側との関係



## 2 主な事業

### 2-1 3つの事業

JSVNでは、次の3つの事業を進めている。



### 2-2 スポーツボランティア養成事業

JSVNでは、スポーツボランティアの養成を目的に、ステップアップ形式で4つのプログラムを実施している。この他、ライセンス保有者に対して、自己啓発を促すためのスキルアップ研修会を開催し、人前での話し方教室や多様な文化・習慣を有する外国人への理解を深めるための講座、普通救命講習なども随時開催している。

#### ●スポーツボランティア養成プログラム

##### スポーツボランティア研修会

スポーツボランティア活動のやりがいや楽しみ方を知る。

##### スポーツボランティア・リーダー養成研修会

一般ボランティアと共に、楽しく充実した活動をするためのリーダーシップを学ぶ。

##### スポーツボランティア・上級リーダー養成研修会

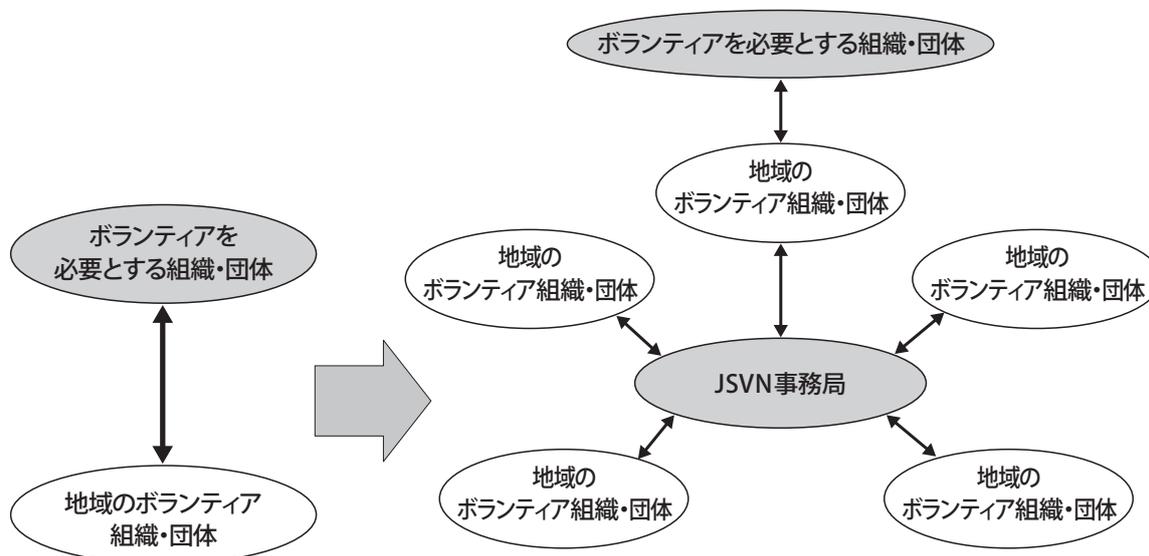
主催者・ボランティア共に満足度の高い活動コーディネートを学ぶ。

##### スポーツボランティア・コーディネーター養成研修会

ボランティア組織の運営をサポートするための知識を学ぶ。

## 2-3 コーディネート事業

JSVNでは、「ボランティアを必要とする団体」と「ボランティアに参加したい人」をつなぐ情報提供事業を行っている。スポーツボランティアを必要とする団体からの情報を集め、全国の会員団体に活動情報を提供し、各地域のボランティア登録者に発信している。



## 2-4 スポーツボランティア周知・啓発事業

JSVNでは、スポーツボランティアに関する研究事例、スポーツボランティア活動に関する活動報告を行う「スポーツボランティアサミット」を開催し、これからのスポーツボランティアのあり方を見出し、広く社会に発信している。

地域で活動するボランティア組織、行政、スポーツ関係者など、種目や役割などを超え、スポーツボランティアにかかわるそれぞれの立場の人が一堂に会し、意見交換を行う「スポーツボランティアシンポジウム」等も開催している。さらに、オリンピックのボランティア経験者からの活動報告や、海外のボランティア事例など旬な話題やボランティアのノウハウ等を提供する公開講座等も開催している。



### 3 スポーツボランティア養成プログラムの概要

#### 3-1 講習会概要

講習会名称	スポーツボランティア研修会	スポーツボランティア・リーダー養成研修会	スポーツボランティア・上級リーダー養成研修会	スポーツボランティア・コーディネーター養成研修会
内容	スポーツボランティア活動に必要な基礎知識	スポーツボランティア活動の実践知識	スポーツボランティア活動におけるチームビルディング	スポーツボランティア組織の運営および安全管理
時間時間	半日 (2~3時間)	1日 (5.5時間)	2日 (11.5時間)	2日 (12時間)
ライセンス	ライセンスなし (修了証の交付)	スポーツボランティア・リーダー	スポーツボランティア・上級リーダー	スポーツボランティア・コーディネーター
受講資格	○中学生以上 ○スポーツボランティア活動の経験がある者 ○スポーツボランティア研修会を受講・修了した者 (但し、本会の正会員団体に所属するボランティアが受講する場合、正会員団体からの申請によりスポーツボランティア研修会の受講を免除することができる)	○高校生以上 ○スポーツボランティア活動の経験がある者 ○スポーツボランティア研修会を受講・修了した者 (但し、本会の正会員団体に所属するボランティアが受講する場合、正会員団体からの申請によりスポーツボランティア研修会の受講を免除することができる)	○18歳以上 ○スポーツボランティア・リーダーのライセンス取得後1年以上を経過し、かつ10日以上以上のスポーツボランティア活動経験がある者 ○本会または正会員団体が主催する下記のスキルアップ研修を受講し有効期限内のライセンスがある者。また、正会員団体が適任と認め推薦する者。	○スポーツボランティア・上級リーダーのライセンスを有している者 ○正会員団体に所属するボランティアであり、正会員団体の推薦がある者。または、正会員団体が適任と認め推薦する者。
受講料	1,500円	3,000円	6,000円	6,000円
評価・レポート	-	○	○	○
判定	-	○	○	○
面接	-	-	○	○
有効期限	-	取得日の次の3月31日から2年後の同月日 ※以降3年毎の有効期限	取得日の次の3月31日から2年後の同月日 ※以降3年毎の有効期限	取得日の次の3月31日から2年後の同月日 ※以降3年毎の有効期限

#### 3-2 更新講習概要

講習会名称	-	スポーツボランティア・リーダー更新講習	スポーツボランティア・上級リーダー更新講習	スポーツボランティア・コーディネーター更新講習
内容	-	スポーツボランティアの現状と社会認識およびそれぞれのライセンスに求める新たなスキル	スポーツボランティア・上級リーダー更新講習	スポーツボランティア・コーディネーター更新講習
時間	3時間以内	3時間以内	3時間以内	3時間以内
受講料	2,000円	2,000円	2,000円	2,000円

#### 3-3 講師・指導者制度概要

講師名称	-	准講師	講師
講師認定手続き	-	「上級リーダー」のライセンスを有し、本人から申請があった者で、養成プログラム委員会の推薦を受け、かつ理事長が認めた者	「コーディネーター」のライセンスを有し、本人から申請があった者で、養成プログラム委員会の推薦を受け、かつ理事長が認めた者
有効期限	-	上級リーダー有効期間に準ずる	コーディネーター有効期間に準ずる

□執筆および編集担当

■執筆（50音順）

東 正樹

宇佐美 彰朗

園部 さやか

渡邊 浩美

■編集

日本スポーツボランティアネットワーク スポーツボランティア養成プログラム委員会

スポーツボランティア・上級リーダー養成研修会 テキスト（平成28年4月版）

---

特定非営利活動法人 日本スポーツボランティアネットワーク

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル3F

TEL：03-6229-5620 FAX：03-6229-5621

URL：<https://spovol.net> E-mail：[info@jsvn.or.jp](mailto:info@jsvn.or.jp)

---

本テキストの内容を引用された場合、本書の引用であることを明記してください。